

## 評価の実際

ここでは、本時（第3時）に行った「国語の関心・意欲・態度」①の評価の実際について、生徒の作品なども例示しながら述べる。

本単元の評価は、次の表1のような計画で行った。（  囲みの部分は本時の評価）

表1 単元「故事成語と自分の生活を結び付けて考えよう」における評価計画

観点 時間	国語への 関心・意欲・態度①	言語についての 知識・理解・技能①	言語についての 知識・理解・技能②
1		○ 【ワークシート①】 【学習計画表】	
2			○ 【ワークシート②】
3	○ 【ワークシート③】 【観察】		
4	○ 【ワークシート⑤】 【観察】	○ 【ワークシート④】 【観察】	
5			○ 【ワークシート⑤】 【評価表】 【学習計画表】
総括	※第3時と第4時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」の場合は、学習の深まりや向上を考慮して、第4時の結果を単元の評価とする。 なお、「A, C」「C, A」の場合は「B」とする。	※第1時と第4時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」の場合は、学習の深まりや向上を考慮して、第4時の結果を単元の評価とする。 なお、「A, C」「C, A」の場合は「B」とする。	※第2時と第5時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」の場合は、学習の深まりや向上を考慮して、第5時の結果を単元の評価とする。 なお、「A, C」「C, A」の場合は「B」とする。
		※単元の評価は①と②の両方が（A）の場合を（A）、両方が（C）の場合を（C）とし、それ以外は（B）とする。	

第3時の「国語への関心・意欲・態度」①の評価の実際（表1の   囲みの部分）

「国語への関心・意欲・態度」①「故事成語の基になった漢文に表現された内容に関心をもち、故事成語の意味に合う日常生活の出来事と結び付けて考えようとしている」については、第3時と第4時に評価を行った。

このうち、第3時は、日常生活を振り返り、矛盾の意味に合う出来事について起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかいて交流する場面で、ワークシート③の記述とその後の交流の様子を観察により評価を行った。

指導に当たっては、第2時に作成した4コマ漫画を見せながら、場面を4つに分けることやセリフを自分なりの言葉で書き入れることを確認し、指導者が作成した作品モデルⅠ(図1)及びⅡ(次頁図2)を電子黒板に投影して解説し、指導者と生徒で評価規準を具体的に共有した。

まず、指導者の作品モデルⅠ(図1)を提示してワークシート②の4コマ漫画と比較させ、起承転結の構成について説明するとともに、本時に自分でかく文章や4コマ漫画は、故事成語「矛盾」の基になった故事の起承転結の構成と必ずしも一致する必要はないことと、故事成語の辞書的な意味に合う出来事をかくことができれば「おおむね満足できる」状況(B)であることを確認した。

次に、指導者の作品モデルⅡ(次頁図2)を提示して、故事成語の意味に合う出来事は、文章または4コマ漫画のどちらかをかけばよいことを伝えた。そして、辞書的な意味に合う出来事をかくだけでなく、基になった故事から分かる「故事成語の詳しい意味やニュアンス」も含めたものになっていれば「十分満足できる」状況(A)であることを確認した。

☆4コマ漫画でかいてみよう。(セリフも□の中に書き入れよう)

起	承	転	結
<p>○日常生活の中で「矛盾」した出来事をかいてみよう。</p> <p><b>文章・4コマ漫画 (○で囲む)</b></p> <p>☆文章で書いてみよう。</p> <p>●「矛盾」の基になった故事と自分の体験を結び付けて考えよう。</p>	<p>中間テストの結果はさんざんだったので、期末テストにはしっかり準備をして臨みたいと思い、みっちり計画を立てた。</p>	<p>部活動も休みなので、家に帰って、まずは部屋の掃除に取り掛かった。次に、読みたいと思っ読めなかった本を読み、テレビを見た。</p>	<p>部活動があついているときにはできないことに一生懸命取り組んだ結果、試験の準備をする時間がほとんどなくなっていました。</p>
<p>起：いつ、どこで、だれが、など場面や登場人物を設定する。</p>	<p>承：だれが、どうした、など出来事を書く。</p>	<p>転：前の出来事から大きく転換した場面を書く。</p>	<p>結：最後にどうなったかを書いて話をしめくくる。</p>

図1 指導者の作品モデルⅠ(「おおむね満足できる」状況(B)を示す作品例)

ワークシート③ 作品モデルⅡ 「故事成語と自分の生活結び付けて考えよう」

一年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

●「矛盾」の基になった故事と自分の体験を結び付けて考えよう。

○日常生活の中で「矛盾」した出来事をかいてみよう。

☆文章で書いてみよう。

**文章・4コマ漫画（○で囲む）**

起	承	転	結
<p>起は、最近、母親の言うことで、どうしても納得がいかないことがある。</p>	<p>ある時、ぼくは小さい時から大事にしているカードゲームで楽しく遊んでいた。するとぼくの母親は、「もう子どもじゃないんだから、そんな遊びやめなさい。」と言った。</p>	<p>また、ある時、ぼくは友達との遊びに夢中になって家に帰るのが遅くなった。するとぼくの母親は、「まだ子どもなんだから、暗くならないうちに帰ってきなさい。」と言った。</p>	<p>いったい、母親の中で、ぼくは子どもなのだろうか、それとも、子どもでないのだろうか。</p>
<p>起：いつ、どこで、だれが、など場面や登場人物を設定する。</p>	<p>承：だれが、どうした、など出来事を書く。</p>	<p>転：前の出来事から大きく転換したヤマ場を書く。</p>	<p>結：最後にどうなったかを書いて話をしめくくる。</p>

☆4コマ漫画でかいてみよう。（セリフも□の中に書き入れよう）

図2 指導者の作品モデルⅡ（「十分満足できる」状況（A）を示す作品例）

第3時の「国語への関心・意欲・態度」①については次のような目安で評価を行った。

	[国語への関心・意欲・態度] ①
「おおむね満足できる」状況（B）	<p>○ 故事成語の辞書的な意味に合う出来事を、文章または4コマ漫画のどちらかにかいている。</p> <p>○ 文章または4コマ漫画を読んで、故事成語の意味に合うかどうか考え、質問をしたり、意見を述べたりしている。</p>
「十分満足できる」状況（A）のキーワード	<p>○ 基になった故事から分かる「故事成語の詳しい意味やニュアンス」</p> <p>○ 故事の理解に努める意欲的な発言</p>
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立て	<p>→生徒の日常生活から類推して、当てはまるような体験をいくつか例に挙げて、自分の生活を振り返らせる手掛かりとさせる。</p> <p>→直接体験の浮かばない生徒には、生徒のよく知っている物語や漫画作品などの間接体験を出来事として例に示してかくことを促す。</p>

評価は、ワークシート③の記述を中心に行ったが、その後の交流において、故事と作品との関連について、質問をしたり意見を述べたりして故事成語の意味に合うとはどういうことか理解を深めようとしている姿を観察によって捉え、その状況についても補完的に取扱い、評価を行った。

実際の評価と指導は次のように行った。

■「おおむね満足できる」状況（B）と評価した例

ワークシート③「故事成語と自分の生活を結び付けて考えよう」

一年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

●「矛盾」の基になった故事と自分の体験を結び付けて考えよう。

○日常生活の中で「矛盾」した出来事をかいてみよう。

文章 ・ 4コマ漫画（○で囲む）

☆文章で書いてみよう。

起	承	転	結
<p>今日、お父さんに帰って二時間勉強しようと思っ</p> <p>た。</p>	<p>さっそく家に帰って勉強をする準備をし</p> <p>て勉強を始めた。</p>	<p>勉強を始め数分後、全然集中できなくて</p> <p>休むとしてテレビを少しだけ見た。</p>	<p>でも、そのままするとテレビを見てしまい、勉</p> <p>強が二時間も出来なかった。</p>
<p>いつか、自分が勉強が、など勉強の習慣を身につけたらいい。</p>	<p>だが、勉強が、など勉強の習慣を身につけたらいい。</p>	<p>前の出来事から、勉強の習慣を身につけたらいい。</p>	<p>最終的にどうなったかを、勉強の習慣を身につけたらいい。</p>

☆4コマ漫画でかいてみよう。（セリフも○の中に書き入れよう）

図3 「おおむね満足できる」状況（B）と判断した生徒のワークシート③の記述

図3の生徒は、ワークシート③に「家に帰って二時間勉強をしようと思った」のに、「ずっとテレビを見てしまい、勉強が二時間も出来なかった」という事実を捉えて、思ったことと実際の行動が矛盾していることを表現している。この点で「矛盾」という故事成語の意味に合った文章や4コマ漫画をかいている状況であるが、指導者の作品モデルⅠだけを参考にしてかいていることや、実際にかかれた内容と故事との関連が薄くなっていることを併せて考えると、「十分満足できる」状況（A）のキーワード「故事成語の詳しい意味やニュアンス」を満たしていないと考えられ、「おおむね満足できる」状況（B）であると判断した。

この生徒には、次時に、「つじつまが合わない」という辞書的な意味だけでなく、故事成語の基になった故事から分かる詳しい意味やニュアンスが分かるようにかくとよいことを助言した。具体的には、故事の出来事から読み取ることができる「気付かないまま言ったりしたりしたことについて、他の人からつじつまが合わない指摘されて気付いている」様子を生かして書いてはどうかという改善策を示して、第4時では、さらにより作品をかいてみたいという意欲を喚起できるように努めた。このような指導や助言を行うことで、第4時での学習活動において、故事成語の意味に合う日常生活と結び付けて考え、交流する活動への意欲を高め、本生徒は「十分満足できる」状況（A）となった。



■「十分満足できる」状況（A）と評価した例

ワークシート①「故事成語と自分の生活を結び付けて考えよう」

一年（ ）組（ ）号 氏名（ ）

●「矛盾」の基になった故事と自分の体験を結び付けて考えよう。

○日常生活の中で「矛盾」した出来事をかいてみよう。

文章 ・ 4コマ漫画（○で囲む）

☆文章で書いてみよう。

起	承	転	結
<p>ある日、夕飯できらいな野菜をためがでてきた。</p>	<p>するとお姉ちゃんから「好き嫌いせずに食べよう。もたないよ」といわれた。</p>	<p>次の日の夕飯、肉じゃがにお姉ちゃん「きらいなじゃがいもが入っていたお姉ちゃんばいじゃがいもだけを残していた。」</p>	<p>お姉ちゃんに「好き嫌いすんな」といって「無言でさっていった。」</p>
<p>起… いつどこで、たれが、など場面や登場人物を設定する。</p>	<p>承… たれが、どうした、など出来事を書く。</p>	<p>転… 前の出来事から大きく転換したやまを書く。</p>	<p>結… 最後にどうなったかを書いて話をしめくくる。</p>

☆4コマ漫画でかいてみよう。（セリフも□の中に書き入れよう）




図4 「十分満足できる」状況（A）と判断した生徒のワークシートの記述

図4の生徒は、自分が「きらいな野菜いためがでてきた」ときに姉が「好き嫌いせずに食べろ」と言ったにもかかわらず、姉が「きらいな」「じゃがいもだけを残していた」ので、『好き嫌いすんな』ていったやん」と自分が指摘すると、姉は「無言でさっていった」という日常生活の場面を、文章と4コマ漫画でかいている。また、この生徒は、その後の交流活動においても作品と故事の関連について積極的に質問をしたり、友達からの質問に答えたりしている様子が見て取れた。したがって、この生徒は、「故事成語の詳しい意味やニュアンス」を生かした文章と4コマ漫画をかいて、「故事成語の詳しい意味やニュアンス」について交流していると判断したので、[国語への関心・意欲・態度]①「故事成語の基になった漢文に表現された内容に関心をもち、故事成語の意味に合う日常生活の出来事と結び付けて考えようとしている」について「十分満足できる」状況（A）であると評価した。

この生徒の作品については、次時の導入で学級の生徒に紹介し、「矛盾」の故事と日常生活の出来事の共通点を確かめさせ、「矛盾」の詳しい意味やニュアンスに合った出来事をかいている作品例であることを理解させた。紹介されたこの生徒は、自信をもって第4時の学習に取り組み、第4時の学習においても「十分満足できる」状況（A）であった。

## ■「努力を要する」状況（C）と評価した生徒への対応

本時の学習において、「努力を要する」状況（C）となりそうな生徒には、生徒の日常生活から類推して、当てはまるような体験をいくつか例に挙げて、自分の体験を振り返らせる手掛かりとさせた。また、直接体験の浮かばない生徒には、生徒のよく知っている物語や漫画作品などの間接体験を出来事として例に示してかくことを促したりした。

前述したような指導を経ても、最終的に、「努力を要する」状況（C）と判断される状況にあった生徒には、第4時の学習活動において、生徒の日常生活から類推して、体験の浮かびやすいような故事成語を選んで、その基になった故事と一緒に読み、生徒の「国語への関心・意欲・態度」を育てるようにした。そして、故事成語を1つ選んで起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかく活動において、故事成語の基になった故事を十分に読んで日常生活を振り返るようにさせ、[国語への関心・意欲・態度]①において、少なくとも「おおむね満足できる」状況（B）となるように指導した。

## ■ 観点別評価結果の総括

「国語の関心・意欲・態度」①の評価については、第3時と第4時に評価場面を設定している。第3時は、故事成語「矛盾」を日常生活と結び付けながら、故事成語の意味に合う出来事について起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかく交流する学習活動において評価を行うこととした。また、第4時は、自分で選んだ故事成語を日常生活と結び付けながら、故事成語の意味に合う出来事について起承転結の構成に沿った文章や4コマ漫画をかく交流する学習活動において評価を行うこととした。

これらの評価結果を総括する際に、2つの評価結果が異なる場合には、1頁の表1に記したように、以下の①、②のようにした。

- ① 第3時と第4時の評価結果が順に「A, B」「B, A」「B, C」「C, B」となる場合は、生徒の学習の深まりや向上を考慮して、第4時の結果を単元の評価とする。
- ② 第3時と第4時の評価結果が順に「A, C」「C, A」の場合は、いずれの場合においても「B」とする。

第3時と第4時は同様な活動であり、第4時では活動の進め方などにより習熟が図られることと、第4時では自分が選んだ故事成語について活動を進めるため、第3時にも増して意欲が高まることを期待して、第4時における評価結果をより重視することとした。第3時においては、記録に残す評価として位置付けているが、同時に、生徒の状況に応じて適切な指導・支援を行うことで、第4時の学習活動の充実につなげたいとの意図もある。

このように記録に残す評価を適切に位置付け、確実に評価を進めるとともに、単元を見通した形成的な評価とそれに基づく適切な指導を行っていくことが大切である。